

# 5月園だより

えんちょうのふでばこ

R4. 4. 20 No.1  
かきの木幼稚園  
園長 川井 直子



## ○「種」植物の生きる力

柿畑のグリーンゾーンはいつの間にかいろいろな野草が花の時期を終え、自らの仲間を残す準備をしています。

たんぽぽ……花が綿帽子になり、種が気球のように飛んで行けるようになっています。

すみれ……さやの中に種を作り、それが弾けるのです。

クローバー……白い花が咲き、種を作ります。

へびいちご……鳥に食べてもらえるよう、これから赤い実をつけます。

鳥や動物が種を運んで来たり、風が運んでくれたり様々です。

ちなみに、柿畑の真ん中の大きなくぬぎの木は卒園児がどんぐりを鉢に蒔いて苗から育てたもの。

ぶどう畑のそばで、毎年実をつける柑橘類の木も卒園児が種から育てたものです。

都会の幼稚園では植木鉢に種を蒔きその成長過程観察をする場合が大部分です。

しかし、自然に恵まれた幼稚園があっても日常生活の中で、関心を持たなければその価値はわかりません。子ども達が「自然」に関心を持つようになるためには、子ども達の成長、発達に即して働きかけなくてはなりません。

○前おきは長くなりますが

今年度から恒例のプランターや植木鉢で行う種の成長観察は、次のねらいで行います。

(1)年中組—(変更なし)朝顔は苗まで育てた後、柿畑のフェンスに這わせ、環境美化と種の収穫に。

(2)年長組—日常生活の中で食べた果物や野菜の種、どんぐり、柿畑で拾った柿の種、乾物コーナーの豆類、等々考えて持って来る(念のため多めに)。

それぞれ鉢に種をまき、芽を出し成長していく過程を観察し、研究して育てる。

・期間は定めず気の済むまで。

・夏期等大きな休みの日は家に持ち帰り継続して育てます。

・収穫できた場合はどうするか？皆で考える。

㊟ 食べた果物等の種は果肉を洗い乾燥させて下さい。